

緊急地震速報全館リアルタイム放送システム設置完了

平成 24 年 7 月 13 日（金）

今年須崎小学校が指定を受けている防災教育のハード整備面での核となる緊急地震速報全館リアルタイム放送システムの工事が完了しました。

須崎市内の学校にはこのような緊急地震速報受信端末が職員室等に設置されています。

しかし、これは端末だけで職員室等の設置場所にしか受信・放送されません。ちなみに緊急地震受信速報システムとは、まず端末からアラームが鳴り「震度 7 強、18 秒後 アラーム音の後 10.9.8.7.6.5・・・」というふうにカウントダウンが始まり、0 になった時にその地震が襲ってくるという、直前に地震の発生を知らせるシステムです。（本校設置の緊急地震速報は気象庁の C アラートシステムにより配信されます。C アラートは震源地より 20km 単位の輪切りで測位されるため、端末の設置位置（市町村）によって、震度や地震発生までの残り秒数がそれぞれの設置位置に応じて放送される精度の高いシステムです。

信号を受信し緊急アナウンスが聞こえるのはこの端末からのみ。

つまり設置している場所でしか聞こえません。小学校は中学校、高校（教科担任制）とは異なり授業中はあまり先生が職員室にいません。

この放送を聞いた職員が全館放送を入れたとしてもその時にはもう地震が起きています。そこで、従来の受信システムに写真の黒い拡張ユニット装置を追加し、新築の須崎小学校新館の放送システムと接続します。須崎小学校の新館には学校等の放送機器業者大手の TOA（トア）さんの新しい機器が装備されていますが、この全館リアルタイム放送システムの構築は大手業者の TOA さんでも今まで設置したことがないということです。約 1 ヶ月半の地元の業者さんと TOA さんとの調整後、本日工事が行われました。



テスト放送を何回か行い正常に機能していることが確認されました。新校舎建築後に放送の難視聴帯であった中庭にもスピーカーが追加され校舎周辺では、全ての放送が子どもたちに聞こえるようになりました。今後はこの緊急地震速報全館リアルタイム放送システムを活用しての避難訓練を行います。

須崎小学校の新しい放送設備には災害発生時に停電しても、しばらくは放送できるバッテリーが搭載されているようですが、このバッテリーを試すには、校舎の電源をすべて落とすしかありません。

また、古い学校用放送設備への受信端末を接続して上記の「全館リアルタイム放送システム」を構築するためには、設置費がかなりの高額となります。



1 ～システム概要～

① 工事概要

現在須崎小学校に設置されている緊急地震速報装置端末 (SH210-J) を須崎小学校内に自動的に放送を行えるように、既設校内放送設備 (FS991) と連動し、緊急地震速報の全館リアルタイム放送を行う。

② 工事内容

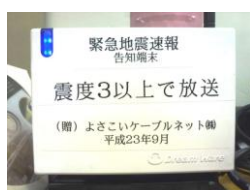
既設緊急地震速報装置 (SH210-J) から既設校内放送設備 (TOA FS991) に音声・起動信号を連動するように、拡張ユニット (写真黒の装置 SH210-J-O) の設置。音声起動信号用の配線、接続工事を行う。

③ 放送の優先順位

緊急地震速報を校内の最優先とするため、既設校内放送設備 (TOA FS991) のタイマー入力端子に接続を行う。既設時報チャイムは、音声入力端子へと接続変更を行い、他の業務放送と優先順位を同じとする。また、FS991 の設定を「優先無し」とし、チャイムと他の業務放送は同時放送とする。

2 ～ システム構成図 ～

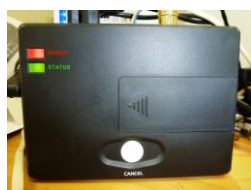
(既設) 緊急地震速報端末親機
(SH210-J)



SH210-J (親機)

(新設) ケーブル
(起動・音声)

(新設) 拡張ユニット
(DPASS SH210-J-O)



DPASS SH210-J-O
(拡張ユニット)

(新設) ケーブル
(起動・音声)

(既設) 校内放送設備
(TOA FS991)

